



論説

道路政策の轉機

水野鍊太郎

世運は變轉して止まる所なく、文化は進展して滯る所がない、而かも其の勢の急調なるは實に輓近の事相である。思ふに世界大戰に依つて白色民族の團結が弛緩したるに乗じ有色民族が俄かに擡頭し來つたことは世運回轉の著しきものである。彼の印度に於けるガンデー一派の反英運動と云ひ、滿洲國の建設と云ひ我帝國の外交政策の轉換と云ひ、歐米白色民族國は民族的感情に基いて有色民族國就中我帝國に向つて威壓を加ふるに至つたことは争い難い所である。然るに對外關係の斯の如く急調を告ぐるの今日我國內に在つては思想安定せず、一般國民は其歸趨する所を知らざるもの如く觀せらるるのである。吾人は經世家の深く此に留意せられて之に善處せらるるの方策を按排し機宜の措置を講ぜねばならぬことと思ふ。若し然らずして徒らに晏如靜觀の態度に出でんか國勢は萎縮して宇内の大勢に順應すること能はざることとなり、時を経るに従つて或は危殆に導かるることなきを保し難いのである。寔に關心を怠つてはならぬ時節であると考へる。

吾人は眼を、外各國の形勢に放ち、内國家の現状を凝視して之が對策を講じ帝國として番に東亞の

みならず、汎く宇内各國に對し優越の地位に在らしむることに努力せねばならぬ而して斯く爲すことに於て我帝國の使命は始めて之を達成することを得るのである。斯く觀する時に國民は更らに緊張し進んで時運の趨く所を省察し、國防に産業に教育に交通に邦家百年の大策を樹立せざるべからざるを痛感するのである。

道路法實施以來既に十有五年を經過した我邦路政の上に一新紀元を劃せる該法の實施に際しては政府當局に於ても銳意道路政策を講し以て效果の完きを期せんことを企て道路改良會亦其の遂行に關して助力大に努むる所があつた。然るに國家財政の事情は豫期の如きを得ず、吾人多年の企圖は遅々として進まなくなつたことは甚だ遺憾である。其の間年額三四百萬圓を投じ年々歳々或は國道に或は重要な府縣道にとにかくにも多少の改良を加へ得たるものあるは聊か欣快を感じる所である。更らに思ふに假令當初の計畫が全然實現せられたとするも國勢の推移は駸々として止まる所を知らざるの情勢であるから吾人は今日に於て轉た路政革新の機なるを痛感する次第である。這次道路改良會は大阪市に於て第一回道路大會を開催し以て同志と共に此機を逸せず路政上一大飛躍を試みることを企てたのである。余は差支ありて親しく其の實況に接することを得なかつたが報告に依れば豫期以上の來會者があつて非常の盛況を呈したとの事である。之れは明かに道路に關して國民一般の關心が深まりつゝある氣運を反映したるものと思はるのである。而して其の大會に於て決議したる所を見るに國道府縣道路路線認定の範圍を擴張する意見國道の政策維持を總

て國費支辨と爲すの意見、國道改良工事速進に關する意見、道路と鐵道及軌道との關係に關する意見、鋪裝道路網完成に關する意見等の如き道路の改良に關しての事案が討議せられたのである。而かも此の大會が緊張裡に終始したことは寔に喜ぶべき現象である。斯く第一回道路大會が意外に成功を見るに至つたのは時勢の然らしめたる所なるは勿論であるが、道路改良會が十有五年間道路改良に關して努力し來りたること亦與つて大に其の效ありと信するのである。

回顧するに大正八年道路改良會の創立に當つて余は道路の善惡如何が國民の生活問題、産業の發達文化の普及進展及軍事上に影響することの甚大なるを痛感し、我國が宇内列強の一に加はつて文物施設總てが進歩したことを誇稱するも、國內の道路橋梁が舊態依然として粗惡なる以上は眞に國力充實の法具はり東洋の平和を双肩に擔ふ大帝國なりとの確信を懷抱することは許されないので、道路の改良は國運進展上焦眉の最急務である所以を高調したのであつた。其の後道路法施行十年紀念の際に既往に比較すれば稍面目を革めたる所があるが、更らに一段の改良を加へねばならぬことは勿論、近時道路熱の旺盛となつて國民が鐵道萬能の觀念から目醒めて自動車交通と道路利用の機運に向ひつゝあるから、道路の改良に關係ある吾人は此の機運に乗じて益々道路の完成に意を致し努力しなければならぬことを力説したのである。今道路大會が盛況を告げたるは眞に余が意を得たるもので欣快の至りである。斯る好機に際して更らに道路政策の根本的革新を圖り第二次劃期的企圖に出てねばならぬことと思ふ。交通審議會や土木會議が設置せられたのであるから、克く政府

當局と協力して眞に我が帝國をして名實共に東亞の指導者たるの使命を完ふする爲めに道路交通の設備を完成し益々國力の伸暢を圖らねばならぬ。我道路改良會は此の秋に當り更らに一段の重任を負ふに至つたものと謂はなければならぬ。

道路政策の更新

青木精一

交通政策上道路の改良といふことは、正に時代の喫緊痛切なる要求となつて來て居ることは、自動車交通の異常なる發達を見ることのみを以ても之を知ることが出来るのである。況や經濟文化の發展と國民生活の複雑化等に鑑み、今や道路政策の上に一大革新を施すべき必要に迫られて來て居るのである。抑々道路改良事業は大正八年原内閣當時、内務省に於て道路會議の結果第一次道路改良計畫を樹立し爾來之に依りて國道府縣道の改良工事が着々施行せらるべき筈であつたが、中途財政其他の事情より豫定通りの進行を見ることが出来なかつたのである。尤も昭和六年以降兩三年來は他の事情に迫られ或は失業救濟産業振興農村振興或は時局匡救事業として、土木工事に相當の力を注がれて其實蹟稍見るべきものがあつたのであるが、今回内務大臣は交通情勢の變化に鑑み、更に道路政策上根本的に方針の立直しを期する爲に、土木會議を興し、同道路部會に道路改良に關する件を諮問する所あり、同會議は慎重審議の結果既に第二次道路改良計畫に關する答申案を議決する